

平成23年度 歴史民俗資料館の管理運営に対する評価票

所管課：教育委員会 社会教育課

評価対象期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

評価委員会開催日：平成24年10月23日

1 指定管理者

指定管理者	株式会社日立ビルシステム
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日（5年間）
施設概要	発掘による埋蔵文化財や、市民から寄贈された農具、民具などの民俗資料が多くあることから、これらを収蔵し、展示、公開するとともに、長年にわたり伝えられてきた民話の紹介などイベントの開催やリーフレットの発行などにより、特徴ある郷土の歴史、文化をより深く理解し、誇りと親しみを感じてもらうことを目的とする。
指定管理料	9,987千円（5年間計49,935千円）

2 管理運営の内容

項 目	23年度の状況
運営状況	○平等利用のための手法 ・職員に対する接遇教育や案内資料の整備、ミーティングを通じた意思統一などにより来館者への平等で均一なサービス提供に努めた。 ○自主事業の展開 ・市との共催も含め、施設の特徴を生かし目的に沿ったイベントを重点に計画し、研修室を利用した「手づくりに挑戦」や「歴史講座」など各種イベントを年間20回開催した。 - 夏休みに開催した「手づくりに挑戦 夏のプレスレットを作ろう」では、博物館実習生と協力して実施し、211名の参加者があった。 - イベント内容は職員が開発し、材料なども職員が手づくりで準備しているのが、大きな特徴である。 ・特別展「魂はどこへ」の関連事業として、雁屋遺跡関連の座学の講演会と雁屋遺跡の現地案内を実施した。 ○情報提供 ・資料館のホームページに施設の紹介や催し物その他諸情報について、親しみのある表現で最新情報の公開に努めた。 ・ポスター及び市広報誌やホームページ、北河内のミニコミ誌で催しの案内を掲載し、広く市民の方々にお知らせすることにより、来館者の誘致を図った。また、各小学校（7校）及び近隣の保育所に案内状を配布し、施設活用のPRに努めた。 ・発掘調査速報展を随時開催した。 ・田原正傳寺の薬師如来立像が市の有形文化財に指定された産経新聞記事の掲載。特別展の開催状況が産経新聞に掲載され多数の来館者があった。 ・弊社のホームページに掲載し、指定管理業務を通じて四條畷の歴史遺産を全国に紹介した。 ○安全確保対策 ・災害時に弊社の緊急ネットワークが機能するように緊急連絡先を掲示。 ・トラブルに対しての緊急連絡対応体制の掲示を行い、発生した場合は、国道163号沿いの弊社の部品センターがバックアップを行う。 ・ミーティングを適時実施し、常に状況に合わせた管理運営に努めた。 特に安全面の注意事項は文書で確認し、注意を払っている。また、火災消火訓練・消防署通報訓練・避難訓練を実施している。

維持管理状況	○ 保守点検 ・各設備の稼働状況に合わせた最適なメンテナンス計画を立て、実施した。修繕に関しては、安全面を優先し自動ドアエンジン部分のリニューアル工事を実施した。 ・空調設備機器の運転状況点検など職員を動員した効果的な維持保全に努めた。 ○環境保全への取組み ・省エネのため、展示室のスポット照明をＬＥＤタイプに交換した。 ・年間を通した空調温度の見直し、ＯＡ機器の適正使用、こまめな消灯の実施を行った。 ・ごみ箱の共用化、種類別の設置などゴミの分別と少量化に努めた。 ・紙印刷媒体を回覧して共有することで、紙の使用量を削減した。 ・毎年、四條畷市生活環境課へ提出している当年度の環境負荷実態把握調査報告書を基にして、職員ミーティングなどで環境負荷への意識向上を図るとともに、利用者向けには、ポスターの掲示等により環境意識の向上を図った。
利用状況	今年度は、市内はもとより、市外からのみならず韓国からの研究者も多数来館され、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くＰＲすることができた。また、例年どおり６年生の「歴史」と３年生の「昔のくらし」の校外学習で、畷古文化研究保存会の会員の協力を得て子供たちが実物に触れる体験学習を実施した。 前年度と比較し、利用者数は全体で０．５％の減少となったが、年間来館者数１０，０００名の目標を達成できた。 ・学校・保育所 １，７４４人（３８．２％増） ・一般団体 １，０２５人（１６．３％減） ・個人 ８，２１４人（４．０％減） - 合計 １０，９８３人（０．５％減）
収支状況	当年度収入１０，０３０千円（指定管理料収入：９，９８７千円、自主事業収入：４３千円）に対し、支出９，９５７千円で、収支は７２千円の黒字であった。

３ 利用者へのアンケート調査

項 目	23年度の状況
調査の実施内容	対象：施設利用者 調査期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日 調査方法：アンケート用紙と箱を展示室に設置。自由に記入してもらう 回答件数：244件
調査の結果	スタッフの対応：「満足」が約79% 「やや満足」を含めると約90% 展示の解説への対応：「分かった」が約64% 「だいたい分かった」を含めると約98%
主な苦情・意見等	・勾玉づくりがもう一度したい。 ・とてもいい経験ができて、とてもすばらしいものが見られるのでいいと思います。 ・資料館のイラスト全般が親しみやすくとてもいいと思う。 ・いろいろ説明していただき良かったです。 ・車窓から館が見えたので何が展示されているのかと思いましたが、四條畷の歴史を本当に楽しく見せていただきました。 ・来館者の気持ちにそって良く工夫されて展示・説明文が書かれています。 ・紙芝居もユニークな試みで大変良かったです。今回の講演会は本当に充実した内容で大変勉強になりました。又、企画を楽しみにしています。 ・とても楽しく満足した一日でした。次回の現地巡りを心待ちにしています。

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○ 5 ● 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1
講 評	来館者への「スタッフの対応について」のアンケート調査結果によると、回答数 244 件のうち 90%の方が「満足」・「やや満足」という結果であったが、昨年度と比べると 7%増加している。 施設の運営面では、年間入館者数が昨年度より 57 人減少の 10,983 人であったが、目標の 10,000 名は達成できている。市内からのみならず韓国からの研究者も多数来館されるなか、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くPRすることができたことは、さらなる利用者増加への努力が伺える。展示方法は、安価で容易に手に入る材料を用いながらも見やすいように工夫されており、定期的に展示の入れ替えもなされ、一度来たことがある利用者もまた訪れるような努力が見られる。また、例年どおり 6 年生の「歴史」と 3 年生の「昔のくらし」の校外学習で、畷古文化研究保存会の会員の協力を得て子供たちが実物に触れる体験学習を実施したことは、子供たちへ郷土の歴史・文化に触れる機会を提供するという点で今後とも継続してほしい。今後は小学生だけでなく中高生の子どもたちにもその対象を広げられるようさらなる工夫をしてもらいたい。情報提供の面では、市内の各施設にはすべてポスター・チラシを配布するなど努力が見られるが、市が観光可視化に向けた事業を進める中で、市外の他地域にもPRを広める形で事業を進めてもらいたい。 施設の管理面では、企業努力により経費削減に努力し、収支が黒字となっている点や、自動ドアのリニューアル工事による来館者への安全確保に努めた点、LED 蛍光灯への変換や節電に努めることにより環境面への配慮も実施している。 これらを総合的に判断すると「4」という評価が妥当であると考えている。

(参考) 評価の基準

- 5 計画内容を上回る結果（担当部局として非常に満足できる結果）
- 4 計画内容をやや上回る結果（担当部局として満足できる結果）
- 3 計画内容どおりの結果（担当部局として妥当と判断する結果）
- 2 計画内容をやや下回る結果（担当部局として不満が残る結果）
- 1 計画内容を下回る結果（担当部局として非常に不満が残る結果）